

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○: イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるようにカナで奇跡を行いました。(×: カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

日付 2012年 9月30日

単元 分裂王国時代

テーマ 神様への一途な愛

タイトル 何が一番(ソロモン王の失敗)

テキスト I列王記 11章(1節-13節)

参照箇所

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

マタイ 6:33 or 出エジプト記 20:3

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)

□導入

ある人が誕生日にニンテンドーDSを買ってもらいました。とてもうれしくて頭の中はいつもゲームのことばかり。ご飯の時も、学校にいる時も頭の中はいつもゲームのことを考えていました。そして、友達と遊びに行く大切な約束をすっかり忘れてしまったのです！お友達はカンカンに怒ってしまいました。本当に大切なことを一番にしないと後で大変なことになりかねませんね。あなたが今一番大切にしているものは何ですか？

□ポイント1 ソロモン王は異教の国々の女性たちを愛しました

神様から良いことも悪いことも見分けることのできる知恵をいただいたソロモン王様はイスラエルの国を上手に治めました。神様はソロモン王様に知恵ばかりでなく、たくさんのかやお金、宝石も与えて下さいました。神様を礼拝するための立派な神殿を建て、それと同じくらい立派な自分の宮殿も建てることができました(7:1)。欲しいものは何でも手に入りました。神様がソロモン王様を祝福して下さいましたからです

周りの国と上手にやっていきたいと考えたソロモン王様はエジプトの国の王女様と結婚することにしました。それは本当の神様を信じていない女の人でした。それだけではありません。同じようにして次々に、ソロモン王様は本当の神様を信じない外国の女の人を何と1000人も自分の奥さんにしたのです。

このお妃たちはみんな自分たちの国の神様を拝んでいました。シドン人の神様アシュタロテ、アモン人の神様ミルコム、モアブ人の神様ケモシュ…たくさん神様がいますね。それはみんな本当の神様ではない人間が作った偶像の神様です。人間を造った真の神様はただお一人です。

神様はかつてイスラエルの人たちに「偶像を拝んでいる人たちに気をつけなさい。あなた方も他の偶像の神様に従う者にならないように気をつけなさい」とおっしゃっておられたのでした。しかし、ソロモン王様は神様の命令よりも奥さんたちを愛してしまいました。そして外国の奥さんたちはソロモン王様の心を本当の神様ではなく、偶像の神様へと向けてしまったのです。

- ☞ (1)「愛した」…ソロモンが神様から離れた原因は偶像礼拝をしていた外国の女性を愛したことによる
- ☞ (5)「アシュタロテ」…フェニキヤ人が崇拝した女神。豊穡と性愛の神。「ミルコム」…アモン人の偶像モレクの別称。人身犠牲を要求したとされる。
- ☞ (7)「ケモシュ」…モアブ人の偶像。人身犠牲を要求したとされる。
- ☞ (3)ソロモン王様には700人の王妃としての妻と300人の側女があった。

□ポイント2 ソロモン王の心は神様から離れてしまいました

ソロモン王様が年をとった時、奥さんたちに従って自分も偶像の神様を認めて従うようになりました。そして、奥さんたちが偶像の神様を自由に礼拝することができるようにエルサレムの東にある山の上に礼拝する場所まで作ってあげたのです。そして自分も奥さんの信じる神様に従ってしまいました。ソロモン王様はお父さんのダビデ王様が神様と一つ心で従ったようには神様に従わなかったのです。こうして王様の奥さんたちが偶像の神様を礼拝したので、イスラエルの中に偶像が入り込んできてしまったのです。

☞(4)「主と全く一つにはなっていなかった」…ソロモンが完全に神から離れているわけではなかったが、他の神々も認める混合宗教になってしまったということ

□ポイント3 怒った神様はイスラエルの国を二つに引き裂くと言われました

神様はソロモン王様に怒りを発せられました。それはソロモン王様に今まで二度も「ほかの偶像の神様に従ってはならないよ」と命じておられたのにソロモン王様が命令を無視してほかの神々の心が移ってしまったからです。もしあなたが自分のお父さんやお母さんではない別の人をお父さん、お母さん以上に愛したとしたらあなたのご両親はどんな気持ちがするでしょうか？神様はソロモン王様を愛して祝福してくださいました。しかし、ソロモン王様の心は別の神様に移ってしまったのです。

神様は命令を守らなかったソロモン王様に言われました「あなたは私との契約と命令を守らなかったので、私は王国を必ず引き裂いてあなたの家来に与えます。」

更に神様は言われました。「ただし、あなたの父ダビデに免じてあなたが生きている時にはそれをしません。あなたの子どもが王様になった時にそれをします。しかし、王国をすべて引き裂くのではなく、私のしもべダビデと、私が選んだエルサレムのためにただ一つの部族だけをあなたの子どもには与えましょう」

こうして、イスラエルの国はソロモン王様の偶像礼拝の罪によって二つに分裂してしまうことになったのです。

☞ソロモンの偶像礼拝の罪は謂わば私たち全人類の罪、自己中心性を現していると言える。「神様だけ」と思っているでもそれができないところに人間の完全に墮落した罪性がある。それに対して注目すべきところは(13)に見る神の恵み深さであろう。当然滅ぼされるべきところを憐れみによって残される。それは人間側の功罪によらない神の一方的な「恵み」であり「選び」なのだ。お話の最後で、この神様の恵みにも触れることができたらよいだろう。

□結論 神様は私たちが何よりも神様を愛することを願っておられます

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

ソロモン王は初めお父さんのダビデと同じように神様を愛して大切にする人でしたが、いつのまにか神様よりも女の人を大切にようになってしまいました。その結果、ソロモン王の心は神様から遠く離れてしまい、本当に大切なものがわからなくなってしまったのです。そして王国は分裂して北イエスラエル王国と南ユダ王国に分かれてしまうことになりました。あなたは今何を一番大切にしていますか？神様よりも大切にしていることはありませんか？毎日、一番自分の時間をかけているものは何か考えてみましょう。

教師ノート

日付	2012年10月 7日
単元	分裂王国時代
テーマ	唯一の神様に従う
タイトル	本当の神様(預言者エリヤ)
テキスト	I 列王記 16:29-17:1、18 章
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) I 列王記 18:15 or 申命記 6:4
AG 日曜学校教案参照箇所	(リンクできます)

□導入

あなたは誰か別の人に間違えられたことがありますか？あなたではない別の人があなたの名前で呼ばれていたらどんな気持ちがするでしょうか。

ソロモン王様の後、イスラエルは神様のおことばどおりに2つに分裂してしまいました。一つはソロモン王の王子レハベアムが治める南ユダ王国。もう一つはソロモン王様の家来であったヤロブアムが治める北イスラエル王国です。北イスラエル王国ではただの一人も本当の神様に従う王様がなくなってしまいました。みんな別の偽物の神様(偶像)を拝むようになってしまったのです。

□ポイント1 神様は偽物の神様を拝んでいるアハブ王に預言者エリヤを遣わされました

これは北イスラエル王国であったお話です。エリヤという人がいました。この人は神様のことばを伝える預言者でした。ある日神様のご命令でイスラエルのアハブ王様のところに出かけて行きました。アハブ王様は奥さんのイゼベルと一緒に偽物の神様バアルとアシェラを拝んでいました。そしてバアルのために大きな神殿まで造ってみんなにそれを拝ませていたのです。

そこで、神様に遣わされてきたエリヤは王様の前で言いました。「私の信じているまことの神様が言われます。これから 2, 3 年の間は雨が一滴も降らなくなるでしょう。」雨が降らなくなったら大変な事ですね。それから神様はエリヤに「川のほとりに身を隠しなさい」と言ってアハブ王様の手から逃れさせ守って下さいました。

☞<背景>…カリキュラムの関係でイスラエルが南北に分裂する経緯は駆け足になるが教師は聖書からその概要を抑えておく必要がある。南北に分裂するのはおよそBC930-920頃と考えられている。列王記は南北の王たちを交互に描いている。南ユダ王国は一貫したダビデ王朝の為基本的に王位継承は親子でなされた。それに対し北イスラエルは家来ヤロブアムの流れを受け継ぎ頻りにクーデターが起り王朝が交代している。アハブは北イスラエル王国7代目の王であるが異教徒であった妻イゼベルにより偶像礼拝に走った。ここにもソロモンの罪の影響を見ることができよう。そのような中でエリヤは「主こそ生きておられる唯一の真の神である」と立ち向かっていく。

☞(16:31)「ヤロブアムの罪」…偶像礼拝を指す。南北分裂時北の人々が南のエルサレム神殿に礼拝に行くことがないように金の子牛を作りベテルとダンに据えこれを拝ませたことに端を発している

☞(16:31)「バアル」…豊穡をもたらすとされた偶像神。パレスチナ一帯で広く拝まれていた。

□ポイント2 エリヤはカルメル山で偽物の神様バアルの預言者たちと対決しました

それから三年が経ちました。約束通り雨は一滴も降りませんでした。畑の作物も育たないのでアハブ王様は困り果ててしまいました。エリヤは再び神様のご命令でアハブ王様の所に行きました。「王様は真の神様を捨ててバアルに従っています。今そのバアルの神様と私の信じる真の神様とどちらが本物かカルメル山で対決しましょう」

アハブ王様はバアルの預言者 450 人を集めました。一方エリヤはたった一人です。たくさんのイスラエルの人々が闘いを見るために集まってきました。エリヤは闘いの方法を説明しました。「薪を重ねて雄牛の肉をのせそれぞれの神様にお祈りしよう。お祈りに応えて薪に火を付けて下さった神様こそ本当の神様だ。」みんな「それがいい」と賛成しました。

まずはバアルの預言者たちが祈り始めました。「バアル様、どうか薪に火を付けて下さい！」…しかし何も起こりません。大声で叫んだり、踊ったりしましたが何も起こりませんでした。次はエリヤの番です。エリヤは肉の上にわざわざ水をかけさせました。もはや火のつきようがありません。しかしエリヤは静かに祈りました。「天の神様、あなたこそ真の神様であることを人々に見せて下さい！」…すると突然天から火が降ってきて薪も肉も水も全て焼き尽くしてしまったのです。人々はひれ伏し「この方こそ真の神様です！」と言いました。

□ポイント3 エリヤが祈ると神様は大雨を降らせてくださいました

エリヤはカルメル山の頂上に登り雨が再び降るようにひざまづいて神様に祈りました。この三年間一度も雨が降っていなかったのです。そして、エリヤは若い従者に「さあ海の方を見てきなさい」と命じました。しかし何も見えません。「7回繰り返しなさい」そして七度目に従者が見ると人の手のひらほどの小さな雲が海から上ってくるのが見えました。そしてしばらくすると空一面が雲で覆われ嵐になって激しい大雨が降ってきたのです。

□結論 本当の神様はただ一人です

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1. 神様はイスラエルを愛しておられ、アハブ王を愛しておられ預言者エリヤをお遣わしになられました。しかし、アハブ王は本当の神様ではなく、偽物の神様に従ってしまいました。あなたが従っているものは本当の神様ですか？それとも違うものでしょうか？
2. 本当の神様は力強い神様です。エリヤはバアルの預言者 450 人に対して一人で立ち向かいました。神様が共にいてくださって味方になってくださったので勝利することができたのです。あなたもエリヤと同じような状況に置かれていることはありませんか？困難な状況は神様を体験するチャンスでもあるのです。聖書のみことばを握って一緒にお祈りしませんか？

教師ノート

日付	2012年10月14日
単元	分裂王国時代
テーマ	神様は素直に従う者を祝福して下さる
タイトル	将軍と少女(預言者エリシャ)
テキスト	Ⅱ列王記 5:1-19
参照箇所	Ⅱ列王記 2章(エリヤからエリシャへの継承)
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ヤコブ 4:10
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

エリヤもやがて神様の元に帰る日が近づいていました。神様はエリヤの次に預言者の働きを引き継ぐ人を選んでおられました。それはエリシャです。今日は預言者エリシャの時にあったお話をしましょう。

□ポイント1 ナアマン将軍は重い病気で苦しんでいました

イスラエルの隣にあるアラムという国にナアマンという将軍がいました。ナアマンはとても勇敢な人で王様から重んじられ人々からとても尊敬されている人でした。ところが、ナアマンはとても重い皮膚病にかかって苦しんでいたのです。どんなお医者さんも、どんな薬でも治すことができませんでした。

ナアマンの家にはイスラエルから連れてきた召使の女の子がいました。女の子はご主人を心配してナアマンの奥さんに言いました。「ご主人がイスラエルにいる神の預言者の所に行かれたらきっと治していただけるでしょうに」

奥さんはそのことを将軍に伝えました。そこでナアマンは早速出かけることにしたのです。この苦しい病気が治るならどんなことでもしたいと思いました。ナアマンは王様の許しをもらって家来を引き連れてイスラエルに向かって出かけました。

④(1)「ツアラアト(※らい病)」…新改訳聖書第二版まで「らい病」と訳されている言葉は第三版において原語の「ツアラアト」に置き換えられている。今日「らい病」は「ハンセン氏病」を指す言葉として一般的になり、聖書の「ツアラアト」とは別のものであると考えられるからである。本課では新共同訳で使用されている「重い皮膚病(重い病気)」を採用した。

④(1)「アラム」…ダマスコ周辺、イスラエルの近隣に古くからある小国群一帯を指す異邦人の国々。イスラエルと争いを繰り返していたが、当時はイスラエルと友好的な関係にあったようである。いずれにせよ、どの国の人であれ真の神を仰ぎ見、信頼する者の上に神の恵みは注がれる。

□ポイント2 エリシャはナアマン将軍にヨルダン川で7回体を洗うように命じました

何日も旅をしてついにナアマンは預言者エリシャの家の前に着きました。「アラムから来たナアマンです。預言者のエリシャさんはいらっしゃいますか？」ナアマンはエリシャがいつ出てきてくれるのだろうと待っていました。ところがいっこうに出てきません。すると、家の中から一人の召使が出てきて言いました。「エリシャ様はヨルダン川に行ってあなた様の体を七回洗うように言っておられます。そうすれば病気は治るということです。」

ナアマンはとっても不機嫌になりました。エリシャが直接出迎えて治してくれると思っていたのです。「なんてことだ！ 遠くから訪ねてきた者に対して失礼じゃないか！ しかもあの汚いヨルダン川で体を洗えだど？ 私の国のアラムにはもっときれいで立派な川があるじゃないか！」ナアマン将軍はかんかんです。

すると家来たちがなだめて言いました。「将軍様。せつかく来たのです。難しいことではないのですから試しに入って見られたらいかがでしょう」

☞ エリシャが直接ナアマンに会わなかったのにはいくつかの説があるが、ナアマンは預言者エリシャに期待してイスラエルまでやって来たのに対し、エリシャは治して下さるのはまことの神であることを気付かせるためではなかったかと考えられる。

□ポイント3 エリシャに従ったナアマン将軍は病気が完全に治りました

「それもそうだな…」ナアマンは家来が言う通りエリシャの言葉に従うことにしました。ナアマンは立派な服を脱いで川の中に入りました。そしてエリシャに言われたように体を水の中に沈めました。一回、二回、三回…六回、七回。そして川から上がるとどうでしょう！なんと、ナアマンの体はエリシャの言葉通り完全に治っていたのです！

ナアマンは急いでエリシャの家に引き返しました。そしてエリシャに言いました。「あなたの神様以外に本当の神様はおられないことがよくわかりました。私はこれからは本当の神様だけを信じて礼拝します！」エリシャもそれを聞いて喜びました。ナアマン将軍はこうしてまことの神様を信じて喜んで帰って行ったのです。

☞ 少女、ナアマン、エリシャ、家来のやりとりを簡単なスキット(小劇)にして演じてみるのも面白い。現代版にアレンジすることもできるだろう。

□結論 神様は素直に従う者を喜んで祝福して下さいます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. あなたが交番で道を聞いたとしましょう。もしあなたがお巡りさんの言うことを信頼して素直に言われた道を行けば目的地に着くことができるでしょう。でも、もしあなたがお巡りさんの言葉を信じないで自分の思う道を進んで行ったらどうなるでしょう。神様も私たちが素直に神様の言葉に従うことを喜ばれるお方です。あなたは神様の前に素直な心でしょうか？ 頑固になっていることはありませんか？
2. 神様は一人の小さな少女を通してナアマン将軍の病気がいやされ神様を信じるために用いられました。神様はどんな小さな者をも用いて下さるのです。あなたも神様に従っていく時用いていただくことができます。

教師ノート

日付	2012年10月21日
単元	分裂王国時代
テーマ	人ではなく主に信頼する
タイトル	ヒゼキヤ王(預言者イザヤ)
テキスト	II 列王記 18 章、19 章、II 歴代誌 29 章-32 章
参照箇所	イザヤ 36 章、37 章
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇 118:8	
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

今まで北イスラエル王国の様子を見てきましたが、今日は南ユダ王国のお話をしましょう。南ユダ王国も、多くの王様が神様に従わず好き勝手に悪いことをしていました。しかし、何人かは真剣に神様を信じて従う王様もいたのです。今日はその中の一人ヒゼキヤ王をとりあげます。

□ポイント1 ヒゼキヤ王を通してユダの人々の信仰が回復させられました

ヒゼキヤ王様は南ユダ王国の王様でした。お父さんのアハズ王様はアッシリヤの国と親しくしていてそこから入り込んできた偽物の神様を拝んでいました。ユダの人々もみな偶像を拝んでいたのです。しかし、ヒゼキヤは本当の神様を信じていました。ヒゼキヤは王様になると壊れてぼろぼろになっていた神様の宮を修理し、もう一度モーセの律法をきちんと読みなおし、忘れ去られていた過ぎ越しの祭りを回復させました。偽物の神様、偶像は壊しました。そしてユダの人々にまことの神様を礼拝するように教え、ヒゼキヤ王とユダの人々は再びまことの神様を喜んで礼拝するようになったのです。

☞(18:4)「青銅の蛇」…モーセの時代に出エジプトして荒野を放浪中に不信仰ゆえに蛇にかまれて死ぬという神の裁きにあった時、神の憐れみによって救いのしるしとして用いられたものであったが、時の経過と共に偶像礼拝の対象として用いられていたようである。

□ポイント2 アッシリヤ王国が南ユダ王国に攻めてきました

ところが、とても力の強い大きな国アッシリヤがユダの国に攻めてきたのです。町は次々に占領されて、じわじわとエルサレムの都に近づいてきます。ヒゼキヤは何とか助からないかと金や銀の宝物をアッシリヤの王様に送って出て行って下さいと頼みましたがとてもそんな願いを聞いてくれるような相手ではありません。それなら、とエジプトの王様に助けを求めましたがそれもかないません。ついにエルサレムの都はアッシリヤの大群に取り囲まれてしまいました。

アッシリヤの大軍を率いるラブ・シャケが大声でエルサレムの街の人々に呼びかけました。「ヒゼキヤは一体何を頼りにしているのか。どんな神様だ！我々にかなうはずがない！守ってなんかくれないぞ！」將軍はそう言って神様をばかにしたのです。ユダの人々はただ一言も答えずに我慢しました。ヒゼキヤ王様にそう言われていたのです。

□ポイント3 神様はヒゼキヤ王の祈りに応えて大勝利を与えて下さいました

途方に暮れたヒゼキヤは神様の宮に入り祈りました。そして、預言者イザヤに祈ってくれるように頼みました。するとイザヤはやって来て「アッシリヤの者たちの言葉を恐れるな！必ず私が助ける」という神様の約束の言葉を伝えました。しばらくすると、再びアッシリヤの王様から手紙が届きました。そこには以前と同じように神様をばかにする内容が書かれていました。「お前の信じる神様にだまされるな！アッシリヤから逃れられるとでも思っているのか！」そこで、ヒゼキヤはすぐに主の神殿に上りその手紙を神様の前に広げて真剣に祈りました。「神様、あなただけがまことの神様です。あなたをばかにするアッシリヤからの手紙をご覧ください。私たちを助けて下さい！そうすれば人々はあなたこそ真の神であることを知ることができます！」神様は預言者イザヤを通して「あなたの祈りを私は確かに聞いた。アッシリヤがこの町に入ってくることはない。私がエルサレムを守るから。」と約束して下さいました。

そして、その夜、神様は天の御使いを送って何と一晩のうちにアッシリヤの軍隊を倒して下さいました。

□結論 神様はご自身に信頼する者を助け守られるお方です

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

あなたは絶体絶命の大ピンチになったことがありますか？私たちは助けが必要な時、すぐに目に映るものに助けを求めてしまうかもしれません。しかし、ヒゼキヤ王が大ピンチになった時、神様は人ではなく私を信頼するようにと導かれたのです。人間の力、人間の考えには限界があります。しかし、神様は無限のお方です。神様にはできないことは何もないのです。私たちもヒゼキヤ王にならって何よりもまず神様に信頼して、神様の助けを求めましょう。あなたが今助けを必要としていることは何ですか？